平成２９年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年3月29日
研究・研修課題名	がんのリハビリテーション研修　修了のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	島根大学医学部附属病院　（リハビリテーション部）
研究・研修責任者名（所属）	道端ゆう子（リハビリテーション部）
共同研究・研修実施者名（所属）	医師1名（前木奈津美）看護師1名(園山純子)理学療法士2名（佐藤慎也、福谷早耶香）作業療法士1名（佐藤千晃）（リハビリテーション部）

目的及び方法、成果の内容

①目　　的

当院はがん診療連携拠点病院であり、がん患者へのリハビリテーションの提供が必須である。がん患者リハビリテーション料を算定するには、指定された研修を修了した医師が指示書を処方することと、指定された研修を修了した療法士が担当することが条件となっている。がん患者に対するリハビリ依頼は増加傾向であり、既に研修を修了した19名の療法士でも対応が困難となっている。よって、新たに指示書を処方できる医師とがん患者リハビリテーション料が算定できる療法士を増やし、診療の質の向上を目的とする。

②方　　法

島根がんのリハビリテーション研修会実行員会が主催し、平成29年11月3日～4日に実施される「第3回　島根がんのリハビリテーション研修会」に医師1名、看護師1名、療法士3名がチームで参加する。

③成　　果

研修の受講により、がん患者のリハビリテーションを実施するうえで必要な知識とスキルを身に着けることができた。また、多職種で同じ内容を共有することができた。具体的な講義内容は、

1）がんのリハビリテーションの概要
2）周術期のリハビリテーション
3）化学療法・放射線療法の合併症とリスク管理、骨転移患者への対応
4）歩行・基本動作・ADL・IADL障害に対する対応
5）進行がん患者に対するリハビリテーションアプローチ
6）心のケアとリハビリテーション
7）がん患者の摂食・嚥下障害・コミュニケーション障害
8）口腔ケア
9）リハビリテーションにおける看護師の役割
と多岐に渡る内容で、症例提示を交えた臨床に即したものであり大変参考になった。

また、
1）がんのリハビリテーションの問題点
2）模擬カンファレンス
3）問題点の職種別検討
4）がんのリハビリテーションの問題点の解決
などのグループワークの時間も多く、課題をチームや他の病院職員とで解決する機会が得られた。
これにより、がん患者のリハビリテーションに必要なチーム力を高めることができた。
また、他の病院の特徴や問題点、解決策などを聞くことにより、各病院の実情や工夫点が知れ、県内開催のメリットも得られた。
　今回は今春入職のリハビリテーション科所属の医師が研修に参加できたため、当院のリハビリテーション医師全員が指示書の処方が行えることとなった。看護師は緩和チームの看護師に参加いただき、緩和期

でもできるリハビリテーションの内容についてより理解を深めていただけ、看護師の役割を再認識し連携がよりとれやすくなる成果が得られた。

療法士は理学療法士２名、作業療法士１名が研修に参加した。これにより本院では「がん患者リハビリテーション料」が算定可能な療法士は16名から19名（療法士全体の66%）に増えた。

そのため、主科のリハビリ依頼からリハビリ医師の初回診察までの時間と初回診察からリハビリ開始までの時間がともに短くなっており、研修後はがん患者への対応が早期に行えるようになっている。

これにより、リハビリテーションがより多くのがん患者さんに対して迅速で質の高い内容で提供され、日常生活動作の向上、生活の質の向上に貢献でき、強いては家族の介護負担軽減にもつながるのではないかと考える。

今後は外来患者にも「がん患者リハビリテーション料」が算定できる動きもある。ニーズが多様化し、増え続けるがん患者に対応すべく、対応できる医師や看護師、療法士数を増やすとともに質の高いリハビリテーションを提供できるチーム力を強化したい。